

会 議 録

会議の名称	小金井市地域公共交通活性化協議会
事務局	都市整備部交通対策課
開催日時	令和5年7月18日（火）午前10時～12時10分
開催場所	小金井市役所本庁舎 3階 第一会議室
出席者	<p>[委員（敬称略）] 鈴木文彦、岩澤貴顕、米澤暁裕、早田俊介、古谷弘文、秦野凌、小川将和（代理出席）、信山重広、佐藤武、平野景一、鈴木敦（代理出席）、犬竹幹人、田中将太、青木亮、池内隆司、坂本敬、永田尚人、平野武、松本彩佳、小田切美穂、玉村有佳、林智子、日野靖久</p> <p>[市事務局] 小林大治（都市整備部交通対策課長）、千葉祐生（都市整備部交通対策課交通対策係長）、越聖子（都市整備部交通対策課交通対策係主任）、パシフィックコンサルタンツ(株)</p>
傍聴の可否	(可) ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	7人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 委嘱状の交付 3 委員の紹介 4 市事務局の紹介 5 会長、副会長の選任 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> ① 諮問「地域公共交通計画（案）の作成」 ② C o C oバスの再編について ③ 地域公共交通計画の策定について 地域公共交通計画とは 小金井市の状況 アンケート調査の実施について 7 報告 <ol style="list-style-type: none"> ① 路線バスの運賃改定について 8 その他 9 閉会 <p>[資料]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 協議会条例 2 令和4年度C o C oバス利用実績等について 3 C o C oバス再編後の状況について 4 地域公共交通計画とは 5 小金井市の状況 6 各種アンケート調査の実施について <ol style="list-style-type: none"> 6-1 市民アンケート調査票 6-2 路線バス利用者アンケート調査票 6-3 C o C oバス利用者アンケート調査票 6-4 タクシー利用者アンケート調査票 7 京王電鉄バスグループ（多摩地区）の上限運賃変更認可申請について <p>席次表</p>

発言内容・
発言者名
(主な発言
要旨)

事務局：

定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第1回小金井市地域公共交通活性化協議会を開会させていただきます。

— 会議成立の報告 —

— 資料確認 —

— 会議録について —

— 市長挨拶（代読） —

— 委嘱状交付 —

— 委員紹介 —

— 会長、副会長の選任 —

会長：

改めまして、皆さん、おはようございます。改めて地域公共交通活性化協議会としてスタートする会議の会長を拝命しました交通ジャーナリストの鈴木文彦と申します。よろしくお願いいたします。これまでの地域公共交通会議としての役目も担ってきて、小金井市にかかわって結構な年数になりました。

これまでC○C○バスの再編について様々な議論をしてきたわけですが、これからはこの地域公共交通活性化協議会というのは地域公共交通計画という市の交通ネットワーク全体の話をつかさどるような形で計画を立てていくことになります。もちろんC○C○バスがそれなりのウエイトを占めてくる部分ではございますが、鉄道、路線バス、様々な公共交通を束ねて全体として小金井市の市民にとって、あるいは小金井を訪れる人にとって使いやすい公共交通にしていく、そのための計画を立てていくということになりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただきながら進めさせていただきたいと思っております。

なお、今交通を取り巻く状況は厳しいものがありまして、ご承知のようにここ3年ほどのコロナ禍を経て公共交通利用者もかなり減少してきています。ある程度戻ってきてはいるものの、コロナ前には戻らないという現実がございます。そういうことに加えまして、今担い手、特にバス、タクシーの乗務員が非常に足りない状況にあります。そういうことを考えますと、これからの交通の計画は新しいものを次々とつけ加えていくようなものはなかなか現実的には難しいものがあります。したがって、ある資源をいかに有効に使って、有効に使った中で最適な交通を作っていくことが必要なのではないかと考えております。これはとりあえず私の意見として申し上げておきますが、そんなことも考えながら、長く続けていける小金井市の公共交通を構築していきたいと思

ますので、ひとつよろしく願いいたします。暑い中ご参加いただきましてありがとうございます。

副会長：

副会長に就任いたしました青木と申します。貫井北町在住で市民委員に参加させていただいておりますが、もう1つ東京経済大学で交通を担当しております。主に地域交通の問題等を扱ってきました。CoCoバスの再編にもかかわらせていただきましたが、こちらの協議会のほうでも小金井市の地域交通の改善、活性化に向けて努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長：

この会議の進行につきましては座長が進めるということになっておりますので、この先の議事進行は私のほうで進めさせていただきたいと思っております。

それでは、早速6の議題に入ります。本日は議題が①から③まで3つ用意されておりますので、順番に進めさせていただきたいと思っております。

①諮問について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

—資料1に沿って説明—

会長：

諮問をいただいた地域公共交通計画の策定について、これから順次議論を進めていくわけですが、まずその前に議題②CoCoバスの再編についてに入ります。事務局から説明をお願いします。

事務局：

—資料2、資料3に沿って説明—

会長：

ただいま事務局からCoCoバスの再編後の状況についてご説明をいただきました。これにつきまして、ご質問、ご意見があれば頂戴したいと思います。

池内委員：

東町循環と野川・七軒家循環は、4月、5月の2か月だけですが、かなり利用者が落ち込んでいる原因というのは何か考えていらっしゃるのですか。

もう1つは、どんどん補助費が上がっている。補助金の割合が50%以上を超えています。それをどこまで許容できるか考えていらっしゃるのですか。

事務局：

東町循環については運行事業者と検証してまいりたいと思っています。

野川・七軒家循環については、運賃が一般の方が180円に上がったことによって回数券を使われる割合が増えているようにお見受けします。そうしますと、バスの中での運賃収入は現金のみですので、そこで収入が下がっているというところではあります。今後も引き続き運行事業者と連携しながら状況については把握に努めて、皆様にご報告したいと思っています。

補助金の推移についてご説明いたします。コロナ禍ということによって利用者が少なかったことと、今もガソリンが高騰しているというニュースが出ており、運行にかかる経費が増大し、運行補助についてはこれまで以上のものだったと認識しております。

今後は、収入としては運賃体系が変わったことですか、また、一定物価高騰が落ち着いてくると変わってくるのかというところはありますが、なかなか見込みが難しい部分と認識しております。

会長：

ほかにいかがでしょうか。

永田委員：

野川・七軒家循環はIC化というのは難しいのですか。そうすることによって、この表は単純に現金だけという表示になっているのですが、回数券も当然使われているということで、そこは補強していただくとして、IC化は難しいのかどうかご見解をいただきたいと思います。

事務局：

ＣｏＣｏバスミニにIC機器を導入するときの経費がだいぶ多くかかってしまうというのが実情としてあります。ご不便をおかけしているのですが、現金、回数券となっております。

会長：

現状、ICカード、PASMOを導入するときの様々な制約もあって、事業者が違いますので、この辺の事情もあるのですが、これは私の個人的な話ですが、ICカードが様々な面で広く使われるような状況になってきていますので、PASMO協会とも意見交換はしていくつもりでおります。

ほかにいかがでしょうか。よろしければ、ＣｏＣｏバスの再編についての議題については以上とさせていただきます、次に進めさせていただきます。

次に議題③地域公共交通計画の策定について、まずは地域公共交通計画について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

会長：

この議題は、議題としては1つになっていますが、3つに分けて説明をいただいて皆さんからご質問、ご意見をいただく形で進めたいと思います。

最初の地域公共交通計画とはというところで今ご説明をいただいたところですが、ご質問、ご意見があればお願いいたします。

池内委員：

これは努力義務であって、東京都が8つしかやっていないというのは、地域の公共交通機関というのは危機に陥っている部分があるのかどうか、2年かけてやるぐらい時間がかかるのかなというのが1つと、2年の間に状況がすごく変わってきて、市庁舎ができたりしたら運行バスも変わってくるので、そういう個別の部分に対してやるのか、大枠としてだけやるのか。2年かける必要があるのかというのが疑問です。

事務局：

まず全国状況ですが、850策定されています。全国で大体1800ぐらいの自治体がある中で850、約半数に近いところの数値というのは、令和7年までにこの計画を作っておかないと地方の公共交通の補助金を国が交付しないという条件になっているということがありまして、主に地方のほうでは計画の策定が進んでいるのかなと思っております。

都内の策定例を見ますと、例えば1つ目は小金井市のように市単独ではなくて、中央区、港区、江東区が一体となったネットワークで構築という形になってございますので、都内の特に都心部のほうを見ますと、1つの自治体というよりは、エリアで作っていかねばいけないというところで地方とはまた違った状況にあるのかなと感じております。

それから、小金井市が策定を2年かけてするところの妥当性というところですが、地域公共交通計画の中の小金井市が大きく担う部分というのはコミュニティバスの部分なのかなと考えておりまして、こちらについては前身の地域公共交通会議のほうで5年にかけて策定いただいて今年の4月から運行を開始したというところがございます。そういった大きな部分の再編計画が終わっておりますので、それとできるだけ期間があかないように策定したほうがまとまりのあるものになるという考えで今回お願いしたところですが。

2年間というとは長く感じるかもしれないのですが、市民の方に無作為のアンケートをどう出していこうとか、利用者の方からどういったお声を聞こうかというようなものを決めて、実際にアンケートをして、それを集計して、また地域の懇談会で皆様の意見を聞いてそれを集約して、協議会で議論していくとやはり2年

間ぐらいかかるのかなと思ってございます。

最後に、庁舎ですとか道路事情とか、特に東小金井の区画整理のところとか、確かに大きな要因があったときにはご報告をさせていただきたいと思うのですが、そんなに大きく左右されないような部分もあるのかなと考えてございます。

坂本委員：

私もほかの委員の方と同じだと思うのですが、C o C oバスの再編計画というのは既に実施されているC o C oバスの路線をより地域の住民に便利にするにはどうしたらいいか、持続可能なものにするのはどうしたらいいかということで、料金と路線という両面からいろいろ議論してきたわけです。そして必要不可欠なものをブラッシュアップするという感じだったので、例えば地域懇談会でもいろいろな意見や激しい意見が出たりしたわけです。

ただし、地域公共交通計画というのは、地方の財政を補助してもらおうとか、そういうところのためには必要でしょうし、東京都内でも計画を作っておくのは地方公共団体としての努めだと思うのですが、私が一番思うのは、小金井市はこれからどういったまちづくりをするのか。それから、市の長期計画はどうなっているのか。その中において公共交通体系がどうリンクをする必要があるのか。要するに常に大きな3年計画とか、まちづくりの5年計画とか、そういうものとリンクしたもので地域公共交通を考えていかなければいけないのか。市の施政方針に地域公共交通はこうありたい、こういうふうに入れてもらいたいという位置づけなのか。大きな小金井市の市政の流れとの関係が常にはっきりしていないと、議論が抽象的になってもいいやとか、具体的にしては駄目だとか、行ったり来たりする可能性があることをちょっと懸念しています。市長の考えや、市議会の流れと、この地域公共交通計画の策定というのはどういう位置関係で作っていくのか。そこをこの会議で、皆さんいろいろな意見はあってもいいのですが、常に意識しながらやっていかないと何か抽象的な意見で終わったり、重箱の隅に行ってしまうとあまり役に立たない計画だったとか、そうなる可能性があるのかなと懸念しているところです。

事務局：

当然市の上位計画、長期計画ですとか都市計画マスタープランといったものと全く無関係で位置するものではないと思われまます。先ほどの説明の中にありましたが、この計画というはいわゆる交通計画のマスタープランというような形で、ここはこうですと皆さんで話し合っていたく形ですけれども、当然市の計画等を意識して、そういったものと整合性を取る中での位置づけであるべきものであると考えているところでございます。

坂本委員：

そういう位置づけを取るのが私は難しいだろうと。ですから、そこら辺を常に市の行政の中でバランスというか、要するに位置

づけを明らかにしながら議論していかないと、計画はできたけれども、市の行政としてはインパクトにならないような計画ではないような気もします。特に地方の自治体はいいのですが、こういう都市部の場合はなかなか難しいのかなど。どういう立ち位置でこの会議で議論をしていくのか、意見を言っているのかというのがいまいち私自身は初回を迎えて疑問に思っているところですが、もちろん精いっぱい小金井市の公共交通については思いがあるから応募させていただいたのですが、市の長期計画とどうリンクしていくのかとか、絶えず誰かが連携を持っていないと、あれは勝手に作っているというふうに扱われるのは非常に嫌だなと思っています。

端的に申しますと、いろいろな計画がある中で、この部分については、この会議体を1つの大きな位置づけとして考えながら、市の行政はやっているという位置づけに持って行っていただきたいなと思っています。

事務局：

確かに今始まったばかりで、どういった位置づけかということですが、上位計画から全く外したものの議論にならないように事務局のほうで必要な資料等を常に提供して、議論が上位計画を無視したようなものにはならないように留意していきたいと考えています。

会長：

基本的にこの地域公共交通計画は、今までの各地での実績などを見ても、市のほかの計画、上位計画なり、並列するような計画と外れるような形で進めているところはありません。基本的にはそれぞれの計画の関連性や位置づけは、計画書で言えば最初の方に市のほかの計画とどういう関係の中にあって議論しているかという位置づけをたいていは設定しています。ですから、これから多分コンサルのほうともいろいろと調整されると思いますが、一般的にはそういう形で進めていますので、小金井市でそうならないことはないと思います。市のほかの計画との関連、その中で地域公共交通計画の位置づけはどこかで明確に文章化もされることになると思います。その辺はそんなにご心配されなくても、どこかで明文化されるであろうということは私から申し上げておきたいと思います。

実際のところ、今までにもご感想等があったように、この地域公共交通計画そのものが国の補助制度とリンクしていることと、それから、喫緊の課題を抱えている地方というのがどうしてもあるものですから、例えば資料4の1ページの一番下の図を見ても、この図自体は地方を想定したものでもありますので、どうしても大都市圏の自治体ではイメージがしにくい部分はあるかと思っています。例えば文章の中にもあるような「必要に応じて自家用有償旅客運送や」と書いてありますが、恐らく東京都内で自家用有償旅客運送が許可になる場所というのは西多摩のかなり奥のほうぐら

いしかありませんので、この地域でこれが入ってくることはまずない。でも、全国的にはこういったことも考えて、様々な手法を考えていかなければならないというようなことからいろいろ挙げられているわけです。ですから、どういう手法でこの地域のネットワークを作っていくのがいいのかというのは、皆さんの議論の中で小金井市に合ったものを作っていけばいいということ。

それから、私は都内での策定状況の中の江戸川区にかかわっているのですが、基本的には交通事業者さんの営業路線でかなりの部分が賄われています。でも、そこがどうしても行き届かない部分であったり、あるいは事業者さんの事業として成り立ってはいけるけれども、例えば運行環境とか停留所の環境が劣悪な場所があったり、様々な課題もある中で、行政として、あるいは地域としてはどんな役割を果たしていくべきかみたいな議論をしました。そういう意味で、例えばちょっと空白になるような地域のあり方であったり、それを江戸川区がこういう形でかかわりながらやることが可能かどうかという実証実験をやったり、課題を抱えていること自体は過疎地域とは違う形かもしれませんが、課題を抱えている部分にどう対処していくかみたいな考え方というのはそれぞれの役割分担をどのようにしていくか、そんなことは計画を立てる上での1つのポイントにはなってくるのかなという感じはしています。

ですから、資料の「地域公共交通計画とは」あたりのところの想定がかなり地方に寄っている部分はあるにしても、都市圏での課題を解決することの必要性、あるいはそれぞれが持つ役割みたいなものは今後議論していかなければいけないことなのかなと思っています。

ほかにいかがでしょうか。

永田委員：

会長の今のお話はすごく腹に落ちるのですが、先ほど担い手の不足、これは多分今後ますます増えていくわけですね。今事業者の方には路線バスはかなり充実して走らせていただいているということで、利便性は非常に確認しているのですが、10年後、20年後、都市計画マスタープランなどで20年後を考えて計画を策定されていると。その中で、2) 策定の必要性のところの3つ目ですが、MaaSやAIによる配車であるとか、自動運転という話が記載されていますが、特に現在の地方の過疎地などではどうしてもバスが走れないというところが非常に増えてきて、そういう箇所でも自動運転の実験もされている。そういうことが進んできていますが、そういうものを考えた上で、小金井市としてそういうものをどう位置づけていくかというのは重要になってくるのだらうなと個人的には思っています。

自分は野川・七軒家のルートのお話をしましたが、自分が居住しているエリアを考えますと、道路というのが非常に貧弱である。4m以下の道路が非常に多いということでありまして、COCOバスを走らせるにしてもルートが限られてしまう。そういうもの

を、今後10年20年先、どう考えていくのかということで、こういう場でちゃんと位置づけていくということが重要なのかなと個人的には思っています。

なので、自動運転の実証実験というのは非常に難しいわけですが、そういうものも含めて今後どうしていくかちゃんと議論させていただければと思います。

会長：

ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。

そうしましたら、今後議論を進めていく中で立ち返っていただいても結構ですので、また一番大切な部分ですので、地域公共交通計画はどのような意味を持って、どのように進めていくかというあたりの議論はその都度させていただきたいと思います。

それでは、次に小金井市の状況についてというところに移ります。事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局：

—資料5に沿って説明—

会長：

今小金井市の状況ということで、国や都などの動向を含めてのご説明をいただきましたが、何かこれについてご質問、ご意見があればお願いしたいと思います。

池内委員：

これを見てすごい資料だなと思ったのですが、よくここまで作られたなど。

1つだけ、パーソントリップは10年ごとにしか出ないのですか。20年、30年、次は40年ですか。

事務局：

そうですね。これは東京都市圏交通計画協議会が行っておりまして、協議会の委員が東京都市圏の都県さんでありましたり国交省さんが委員となられてやるということですが、これは10年ごとに調査を行っています。そういった幅でしかできないということになっています。

池内委員：

逆に言えば、そういう長期的な視点で見ないと駄目だということですね。あまり意味がないということですね。

事務局：

そうですね。調査としてもデータ数が膨大になりますので、そういったところになります。

池内委員：

でも、よくここまで小金井市は落とし込まれたなというので、素晴らしいと思いました。ありがとうございます。

会長：

ほかには。

それでは、小金井市の状況につきましては、今後の議論の際にまた参照しながら進めていただければと思います。

続きまして、3番目、アンケート調査の実施について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

—資料6に沿って説明—

会長：

ただいまの事務局の説明、アンケート調査の実施についてご質問、ご意見があればお願いしたいと思います。

早田委員：

京王バスの早田と申します。こうしたアンケートを取るときに、利用の頻度がとても大事だと思っています。そうしたものが随所にちりばめられているのでとてもいいなと思いました。

それに関連して、資料6-1の7ページの4-3のところ、改善されたら利用頻度が変わると思いますかというご質問があります。その前の4-2がどうすれば利用しやすくなりますかという質問ですので、4-3の答えは「1」が多くなるのかなと思うのですが、「前より利用が増える」というところで、いかほど増えるかというところが知れたらありがたいところです。例えば毎日乗るとか、週に1回とか、半年に1回とか、どういうのがいいかはあるかと思うのですが、いわゆる利用が増えて、どれぐらい乗っていただけるかというところが知れたらありがたいと思った次第です。

事務局：

おっしゃっていただいたとおり、聞き方、考え方の粒度もあると思いますが、検討させていただきます。ありがとうございます。

会長：

ほかにはいかがでしょうか。

青木委員：

アンケートの8ページの新しい交通手段や利用する仕組みで「機会があれば利用したい」「料金によっては利用したい」ということで、お金の話とそれ以外を分けて聞きたいということだと思うのですが、丸をどこにつけようかなと思うと、機会のところに

料金の話が含まれてしまう場合もあるので、表現を完全に分かれるようなものに工夫していただければと思います。

会長：

ほかにいかがでしょうか。

平野委員：

平野です。自分がこのアンケート調査を書いてみて思った点を申し上げますので、ご検討をお願いいたします。

3 ページ、①、「1、買い物のための移動はほとんどしない」と書いてあるところですが、「3、小金井市外の店舗」についてはもう少し親切に書かれたらいかがでしょうか。下に記入例で「イトーヨーカドー云々」と書いてありますが、例えば市外の店舗について、伊勢丹と書かれたら、伊勢丹は立川にもあるし、あちこちにあるということになると、具体的に書かれたほうが、お年寄りも親切にしてあげないとちょっと難しいのではないかと思います。

4 ページの①もそうです。こちらも記入例に「桜町病院など」と書いてありますが、例えば市外の施設、市町村名を書きなさいといっても、武蔵野日赤に行くのに、武蔵野日赤は武蔵野市なのか皆さんわからないわけです。いつも日赤に行くと言っても、市町村名だけで言われたのではわかりづらいので、施設名も親切に入れていただきたい。

6 ページ、3-1、3-2 もそうですが、「6、年に数回程度」「7、ほとんど利用しない」、7番は「利用しない」と割り切ったほうがいいと思います。書きづらいです。

9 ページの5-4 もそうです。市外の場合、これも具体的に、ヨドバシカメラに行くけれども、ヨドバシカメラと書いたら駄目なのか。市町村を書けと言われてもわからないですよね。そういったことで、もう少し親切に書かれたほうがいいと思います。

資料6-2、問2の④、これも同じくです。市外の場合は市町村名だけを書きなさいと言われてもちょっと難しいのではないかと思います。

一番下の路線バスの改善してほしい点云々のスペースですが、この用紙自体がどういうサイズになるかわかりませんが、もう少しスペースを広げて自由に書く欄を広げてほしい。

資料6-3の問2の⑤もそうです。一番下のスペースもそうです。このあたりももう少し親切に書かれたらいいのではないかと思います。

資料6-4もそうです。問2の①、②、それから問3の③ですが、「タクシーを利用するのはどのようなときですか」、これは当てはまるものすべてなのか1つなのか具体的に示されたほうがいいのではないかと思います。以上です。

会長：

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

池内委員：

そもそも論になってしまうのですが、若い方はこれが来たときに回答しますかというのが1つです。過去小金井市でこういうアンケートをやられて、どのぐらい回答が返ってくるのか。私もネットでいろいろアンケートをやるのですが、まだあるの、まだあるのということで、途中で断念することが結構多くて、謝礼とか、そういうものがないのであれば、何かしらの市民の方の使命感を煽るようなものでなければ。小金井市民はもしかしたら民度がすごく高く返してくれる方が多いのかもわかりませんが、かなりのボリュームだと私はすごく感じました。これが返ってくればいいのですが、2,000のうち800ぐらいを目標にしていますが、書いてこられる年代が画一化するのではないか。年配の人しか書かないという気がします。若い方の返事は来ないのかなという気がしたので、その部分がすごく懸念です。

あとは路線バスのアンケートは、これは全国と小金井で違ってくるのかなというのが1つ疑問です。違うのであれば、何を知りたいのかというのが見えなかったのかなというのがあります。

会長：

C o C oバスのときの回収率について何かあればコメントいただけますか。

事務局：

実数は今すぐ出てこないのですが、それをもとに今回の回収率は設定させていただいてございまして、なので800程度は返ってくるかなと思ってございます。

池内委員：

対価は渡さないんですね。例えばこきんちゃんのシールがあるとか。

事務局：

ほかの自治体様でのこれまでの経験に比べますと比較的回収率が高い認識は持っております。

会長：

交通に対してのアンケートはわりと関心は高いので、どこをやっても比較的ほかのアンケートよりも回収率が高いという結果は出るのですが、

資料は事前配布されましたが、皆さん、アンケートを自分の目でやってみましたか。もし何かお気づきの点があればぜひお願いしたいのですが。

永田委員：

8ページですが、5-2で「小型車両による移動サービス」と書いてあるのですが、イメージされているのはカートを使った自動

運転のものとか、そういうものをイメージされているのか。もしされているのであれば具体的な写真とか、そういう例示がないとどういふものを指しているのかよくわからないのかなと個人的には思います。

会長：

ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。

坂本委員：

このアンケートはいわゆる市民アンケートを優先に出すわけですね。次に、路線バスとかC o C oバス、タクシーに分けてやるわけですね。特に市民アンケートの場合に、アンケートの目的が書いてない。何のためにやるというのが浮かび上がってこないです。紙を渡されて、ただ書くような感じのイメージを受けるんです。何に資するためにこういうアンケートをお願いしますというのが貰ったときにわかるような表現のほうがいい。特に市民アンケート調査は6-1別紙の取り巻く状況というのも配って、表紙に来るわけですね。何のためにこのアンケートをやるのかという目的が何も書いていないじゃないですか。このアンケートの趣旨がまずかがみにないと、いくら郵送で2,000人の方に送ってもわからないのではないかという気がします。

それから、6-2、6-3も利用者アンケート調査に協力をお願いと書いてありますが、これを渡す人が説明してやるのだったらいいけれど、これだけの項目があつて丸をつけないといけないのだから、公共交通ネットワークの構築と移動利便性の向上のために利用している方のアンケート調査を実施していて、それを受けてこういうことに反映していきたいとか、それをしっかり伝えるべきだと思います。

池内委員：

対面であればすごくいいですが。

坂本委員：

いちいちバスを待っている人に説明できないですよ。これは郵送のものと同じぐらいの感覚で書いてあげないとわからない。ましてや郵送のときに何を目的にする市民アンケートかというのがわからない。せつかく4つのアンケートをするわけです。その趣旨はそれぞれ微妙に違うはずですよ。

池内委員：

多分、公共交通計画を作るためといつても市民には何のこっちゃうということなので、自分にとって何かしらの将来的なメリットがないとこういうアンケートはする必要がないというか、ニーズを把握するだけだとすごく弱いなというか。C o C oバスは運賃を値上げして路線も変更しました。もっと市民サービスの向上を目指すためにとか、例えば新たに電気自動車なり水素なりを導

入するためにとか、そういう何かしらの目的を作らないと。確かにすごく見えないなというのがあります。

会長：

アンケートの目的の部分についてはどうですか。

事務局：

今回の資料にはつけていなかったのですが、市民アンケートにつきましてもこの調査票と6-1別紙の公共交通を取り巻く状況の他に依頼文をつける予定にしております。そこにこういう目的で使いますというのを書こうと書いていますので、ご意見を踏まえてもう少し丁寧に記載するようにしたいと思います。

資料6-2からの利用者アンケート票につきましても、別紙で依頼文を配ることも検討したのですが、1枚で渡せたほうがいいかなと思ひましてこのぐらいのスペースに書きたいと考えておりました。もう少し書き方、内容について検討した上でお配りしたいと考えております。

会長：

路線バス、C o C oバス、タクシーのアンケート調査票については、はがきで出せる大きさでやるということなのでスペース的な問題はあると思いますが、ご協力をお願いの最初の3行のところをもう少し工夫していただくことで今のご意見を反映することはできるかなという感じはします。そのぐらいしかこれはやりようがないかなという感じがします。

坂本委員：

今会長がおっしゃった方法でいいと思うのですが、要するに利用者アンケート調査協力へのお願いというのは、何のためのアンケートかというのをもっと全面に出して、一番目立つ色の部分にまとめてですね、それを書いて、「なお」以下はなお書きなので、本当の目的の3行のところをもう少し、この調査はこういうためにお願ひしているというのが浮き彫りにして、それが3行に書かれて、なお書き以下はむしろなお書きのような気がするんです。限られたスペースというのはわかるのですが、そこは工夫して、実のあるアンケートにならないと、もらった人が出す気になるような感じに少しでもしたほうがよろしいかと思ひます。

会長：

ありがとうございます。なお書きの後の2行はなくてもいいようなものですね。最初のところに今のご意見を反映させるように考えてもらうようにしたいと思います。

ほかにかがですか。

秦野委員：

西武バスの秦野と申します。市民アンケートと、路線バスとか

C o C oバスとか個別の利用者のところがあるのですが、利用頻度の中で、できれば利用の曜日を書いていただけるとありがたいと思っています。市民アンケートでは利用頻度週何回というところで記載がございしますが、できれば平日、土曜、休日、どの利用があるのかというところを聞きたいなというところですよ。

あと、路線バスのほうでも、平日か土日祝日かとされていますが、土曜と休日で分けて質問を取っていただけるとありがたいと思います。

と申しますのも、私どもバス事業者もコロナの中でのライフスタイルの変化によってお客様の需要がだいぶ変わってきておまして、特に平日と、土曜、休日の利用格差が非常に大きくなっています。仮に平日が100だとすると、休日は私どものほうでは7割以下というところで、土曜は8割ぐらい戻ってきているのですが、休日についてはかなり利用が落ち込んでいる、戻ってこないという現状がありますので、今後の持続可能な公共交通を見据えますと、土曜と休日の利用に対する供給量の差というのもあってしかるべきかと思っておりますので、もしこのようなアンケートをしていただければ、もっと具体的な曜日別の利用の設問をいただくと非常にありがたいと感じております。

会長：

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。今回から参加の皆さん、いかがでしょうか。このアンケート票を見てお気づきの点はありますか。

玉村委員：

このアンケートは、19歳と20歳、30歳も書かれると思うのですが、通勤通学でバスを使っている方も多し、私もそうですが、これが来て、すぐ若い方というのは返すのかなと思います。ポイントとか、何かあるとちゃんと見てくれるのかなと思いました。

会長：

ありがとうございます。ほかの方はいかがですか。
そうしましたら、またお気づきの点、改めてでも結構です。いただければと思います。本日いただいたご意見の反映方法について事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局：

本日いただいたご意見や、今日の後気づいたご意見など事務局にお寄せいただきましたら、実際にアンケートを行うのは9月でございますので、メールや郵送で修正案を委員の皆様にご確認いただきたいと思いますと考えてございます。確認に一定の期間を設けて、9月の実施に向けてもう少しブラッシュアップしていければと考えてございますので、よろしく願いいたします。

会長：

それでは、一応そんな形で、もう一度今日いただいたご意見、かなり重要なご意見をいただいていますので、根本的なところにかかわるご意見もいただいています。もう一度この辺を反映した形での調査票、説明文を作成していただいたものを皆さんに何らかの形でお送りして確認していただくという、実施までの間にその作業を事務局のほうでやっていたかのようにします。

さらにお気づきの点があれば事務局に寄せていただきたいのですが、いつまでにしますか。

事務局：

今日から1週間以内に電話でもメールでも結構ですのでお寄せいただきまして、今日いただいたご意見と合わせて修正案を1回作りたと思います。その上で皆さんに1回見ていただこうと思っていますが、よろしいでしょうか。

会長：

それでは、1週間を目途にさらにお気づきの点があれば事務局のほうへ寄せてください。それを反映した形での修正案作ったものを皆様に何らかの形でお送りして確認していただくと。それも期間を設けて返事をいただくんですね。そのような形にさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

それでは、アンケート調査に関してはそのような形で、時間が過ぎてしまいましたので、議題のところまではそのような形でまとめさせていただきたいと思っています。

それでは、次第の7番目、報告、路線バスの運賃改定についてということで、早田委員からの報告でよろしいですか。

早田委員：

—資料7に沿って説明—

会長：

ただいまのご説明についてご質問等がございますでしょうか。よろしければ、ご報告ということで、次回会議があるときには運賃が変わっているということですね。

それでは、続きまして、次第8、その他について事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

—事務連絡—

会長：

今の事務連絡について何かご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、本日の会議内容はすべて終了になりますが、何か最後に全体を通してご意見等がございましたらお受けいたします

が、よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして令和5年度第1回小金井市地域公共交通活性化協議会を終了させていただきます。次回もよろしく
お願いいたします。

以上